

笹野観音堂史料に関する研究（一）

笹野観音堂史料研究会

はじめに

米沢市笹野本町に所在する幸徳院の観音堂である「笹野観音堂」（米沢市指定有形文化財（建造物））は、米沢藩との関わりが深く、また堂自体の規模が大きく、茅葺の大きな屋根をかけ、建物に取り付く彫り物類も多数あり、その存在感からかねてより著名であった。今般、建築史学の視点から当堂を改めて調査する機会があり、様々な特徴を見出し、その過程で幸徳院に多数の古文書が所蔵されていることを改めて認識した。それらは当堂再建に関わるものが多く、きわめて貴重であるにも関わらず、『置賜文化』第四九号（置賜史談会、一九七一年）に一部が紹介されるのみで、翻刻はもろろその内容に対する分析や評価は未だなされていない。そこで史学の研究者によって、まずは解説を試み、さらに内容を分析しながら、他の古文書とも比較検討しつつ、当堂建立に関わる経緯、関わった人々、建築の様相などを明らかにすべきであるとの提起がなされ、多くの研究者のご賛同を得るに至り、笹野観音堂史料研究会を組織した。

この研究会によって、当堂はもとより米沢藩や藩内の情勢について新たな研究視点を設定することに貢献出来るものと期待している。

・笹野観音堂史料研究会

小幡 知之（山形工科短期大学校） 代表
小林 文雄（米沢女子短期大学）
原 淳一郎（米沢女子短期大学）
布施 賢治（米沢女子短期大学）
角屋由美子（米沢市上杉博物館）
佐藤正三郎（米沢市上杉博物館）
石黒 志保（市立米沢図書館）
宮田 直樹（米沢市教育委員会）

一、笹野観音堂の概要

構造形式は、正面桁行三間、側面梁間四間、組物は三手先、軒は二軒繁垂木、屋根は入母屋造、茅葺で、軒唐破風と千鳥破風が設けられる。正面一間通りを吹き放しとし、妻飾りは二重虹梁斗栱大瓶束。建立年代は、棟札、古文書および構造形式から天保一四年（一八四三）に再建されたものと判断できる。当堂は、比較的規模が大きく、正面側に彫り物が多く配されるが、全体として華美に流れず、杜寺建築として手堅くまとめている。ただ、その彫り物は、細部にわたって相当に凝った造りとなっている。また内部も須弥壇周りを中心に塗りや彩色で華やかに荘厳

しており、一見素木の簡朴な仏堂のようであり、裝飾性が高い。

本尊背後に羽黒権現を祀ることは広く知られているが、このような祭礼法は珍しく、文献から遅くとも桃山期まで遡れると考えられ、神仏習合の一形態として注目される。

また、歴代の領主や藩主との関係が深いことが様々な記録から判明し、藩主などの参詣や代参、藩主からの寄進などが繰り返されている。さらに当堂の修理・再建には歴代藩主が関わり、藩の役人も多く携わっている。ほぼ藩の公的事業と見なしうる。現存する天保年間の当堂にも経費や工事の面で藩が深く関わっていることから、当堂は米沢藩にとつて重要な施設の一つであったといえよう。

二、笹野観音堂に関する歴史資料（古文書等）について

幸徳院には、笹野観音堂建立に特に関わる文書として、「萬歳録」・「大元帳」・「公願録」・「工証録」・「元メ録」が所蔵されている。これらの文書は、再建年代の天保一四年（一八四三）を中心に集中的に記録されたもので、個々の記述量も多く、全体を合わせると大部の記録となる。再建願いから準備、普請中の様々な記録、普請に関わる勘定、建立に関わった職人や建築材料等の経費、寄進者の名前や寄進した金額・物品、そして竣工後の法要など一連の流れが追うことができ、極めて貴重な記録となっている。本研究はこれらの文書を対象とする。また、棟札類には、再建時と判断できる天保一四年の年紀を持つものを始め、関連するものが五枚あり、再建の様子を明確に伝えている。この他に前身建物を含めた什物帳も確認することができた。

以上の記録は、笹野観音堂再建前後の様子が克明に記されていることから、当堂の貴重な記録でもあるが、さらには江戸期の藩に深い関わりがある堂舎の普請について様々な知見を提供するという意味でも大変重

要な史料である。

三、笹野観音堂に関する古文書の解読について

本研究会では、「萬歳録」・「大元帳」・「公願録」・「工証録」・「元メ録」の五冊の史料の解読（翻刻）を行うこととした。二〇二〇年度はこのうちの「萬歳録」と「工証録」の二冊を解読した。

なお、解読作業は、研究会メンバーで各史料の解読範囲を分担して解読し、集約する方式でまとめている。また、今年度分の史料の解読には市立米沢図書館の青木昭博氏の協力を得た。

次年度以降も引き続き他の三冊の史料の解読を進め、まずは五冊の史料の全容の解読を目指して進めていく予定である。

・「工証録」について（解説）

「工証録」は、笹野観音堂の再建に際して、原材料・造作（部材等）・人足などの数量や費用などの設計に関する事項を詳細に知ることができるとものである。また、再建普請に関係した大工棟梁などの職人・藩役人・商人・村関係者・寺院・地域などの名前が具体的に判明し、その役割も明らかにすることができる点も重要である。史料の後半では、観音堂竣工後の「入仏供養」に際しての献立や整えた必要な諸物品についても確認することができる。

笹野観音堂再建普請についての詳細を知ることができる史料である。

・「萬歳録」について（解説）

「萬歳録」は、笹野観音堂再建のために「日々勤行」した人々の姓名を記したものである。ここでの「謹行」は、近隣地域などへの「勸化」に廻っていることを意味していると考えられる。天保一三年二月から翌天保一四年三月までの約一年一ヶ月の間にのべ七四七名もの名前が記さ

れており、天保一四年三月から閏九月分については省略されている。

笹野観音堂の再建に中心的な役割を果たした渡辺廣繁(渡部伊右衛門)の手による冒頭の文章によれば、もとは「萬世録」として「本尊の前」に秘蔵し、「萬々世家門繁栄求願成就、悉地円満の祈念」を行うことを目的に作成されたという。

笹野観音堂の再建にあたって、精力的に携わった関係者の人名が知られる史料である。

四、史料解読の凡例

- 一 史料の解読にあたっては、つとめて原文書の形に沿うように留意した。
- 二 漢字は、原則として常用漢字を使用し、常用漢字以外のものは正字に改めた。
- 三 本文には、適宜、読点「、」、並列点「・」、返点などを付した。
- 四 印章などは、(印)のように記した。
- 五 欠損や判読不能の場合、字数が推定できるものは■で示した。

(小幡知之・宮田直樹)

なお、本研究にあたっては、幸徳院住職酒井龍晃様から全面的なご理解とご協力を賜りました。厚く御礼申し上げます。

「工証録」解説

(表紙)

工証録

覚

一四千百拾人 大工人数 一貳千八百人 人足
 一三百人 家根葺 一金六兩也 石切
 一百七拾五貫文 木挽本山 一金三拾兩也 金道具
 七百人
 一金貳拾兩也 枝輪作料 一三拾貫文 大工小家貳ツ
 手入料
 糸代 一金五兩也 繩代
 一金拾七兩也 細木ほけ 一金貳拾兩也 大森梓山
 小木組共ニ 諸材木入料
 一二拾貫文 はねき 一金三兩也 大欄間木
 脇欄間木貳本 持送り木
 一金五兩也 脇欄間木貳本 一金六兩也 四数
 一金六兩也 糸やう肱木 一金拾八兩也 枝輪板
 一金三兩也 藁俣 一百貳拾貫文 大工夫陳(賃カ)
 道具
 一百貫文 世話料 一金五兩也 是迄諸入用
 〆金四百六拾貳兩三分也
 右江 一金拾壹兩貳分也 梓山残木払見込トシテ
 さし引残金四百五拾壹兩壹分也

造作之杣

一三拾六貫五百五十文 落し板 一貳拾九貫文 椽板
 一貳拾九貫文 御宝前椽板 一五貫八百文 階子貳脚南北
 一拾三貫五十文 上り檀前通り 一三拾四貫八百文 高欄 四方
 一貳拾貫三百文 内神敷板 一拾貫五百五十文 御宝前敷板
 一貳拾六貫百文 須弥檀 一拾壹貫六百文 御宝前裏板
 基天上
 一四貫三百五十文 内神内裏板 一六拾六貫七百文 内神折上天上
 一四拾六貫四百文 唐戸四間 一拾壹貫六百文 組子戸前壱間
 とふふちこし板共ニ
 一七貫貳百文 裏神組子ゑん 一八百七十文 内神敷居三丁
 すみ檀共ニ
 一貳拾九貫文 長押寄せ敷板 一五拾八貫文 引前墨形扉共ニ
 鴨居方立口ノ戸共ニ
 作料〆四百四拾貫六百貳十文
 右材木代 一金拾八兩也
 二口合 金拾八兩ト錢四百四拾貫六百貳十文
 釘金具之覚
 一金七兩也 唐戸金具 一金壹兩也 須弥檀ノ釘
 一壹兩壹分也 長押平ノ金具 一金四兩也 長押角ノ金具
 一壹兩也 高欄ノ金具 一壹分也 大坂錠
 一壹分也 組子ノ金具 一四拾貫文 六寸釘千貳百本
 椽板之分
 一四貫五百文 四寸釘三百本 一拾貫文 御藏三寸釘
 一三貫五百文 合ノ釘五千本 貳千五百本
 うら板分

メ金拾四兩三分ト錢四百五拾八貫六百式十文

此金詰メ金七拾兩三分ト錢五百四十文

一金式拾兩也 塗彩色代共二 一金四兩也 唐戸塗代前二

被下候分

大メ金百式拾七兩式分ト錢五百四十文

唐破風之杣

一壹貫文 もや上之虹梁壹本 一貳貫文 平桁壹挺

一貳貫文 同下ノ虹梁壹本 一貳貫文 前包壹挺

一四貫文 もや垂木 一四貫八百文 輪たるき長八尺

一三貫文 箱棟はら板 一壹貫文 のし板

一五貫文 はり板五間 一壹貫五百文 かハラ壹本

一五貫文 うらかわしな板 一五貫文 三間半もの

一三貫文 はね木三本 一拾五貫文 やね板十間

一拾兩也 大工作料 一貳貫四百文 家根葺料

貳百四十人位 釣りかね

一壹兩也 釘かすかひ 一三拾四貫文 人足貳百人

メ金式拾四兩也

右之通拙者共精誠相尽書上申処、被届無相違御普請成就可仕候、右之外

聊余分之金子頂戴仕間敷候、斯大加藍御普請棟梁職蒙 仰、善時節生逢

何ヶ成宿縁与冥加至極難有合掌之外他事無御座候、為神証差上申一札、

仍如件

天保十三年六月 同元メ役 齋藤吉右衛門

大工棟梁 洪谷嘉藏

同 飯酒盃鼎

同 房間次右衛門

同 房間次右衛門

小嶋秀之助殿

池田壯藏殿

今泉善次殿

内須川伊右衛門殿

右棟梁申出之金高我々立会聊無相違可為致成就候間、安心可被致候、為

同証仍如件

天保十三年六月

内須川伊右衛門

今泉善次

池田壯藏

小嶋秀之助

渡部伊右衛門殿

高橋嘉左衛門殿

高橋六右衛門殿

遠藤權兵衛殿

岩間勘三郎殿

中村伊左衛門殿

寒河江佐右衛門殿

神尾安右衛門殿

遠藤吉右衛門殿

近野清兵衛殿

川村半兵衛殿

板谷彦総殿

中村宗四郎殿

藤倉富藏殿

井上仁兵殿

鈴木孝助殿

米野次左衛門殿

山森佐四郎殿
国分味之藏殿

右杣之内

一金三拾兩者 正金

右之通請取申處実正也、仍如件

天保十三年六月

齋藤吉右衛門

洪谷嘉藏

飯酒盃鼎

房間次右衛門

法音寺様 御納所

一金三拾兩者 正金

右之通請取申處実正也、仍如件

天保十三年八月三日

齋藤吉右衛門

洪谷嘉藏

飯酒盃鼎

房間次右衛門

今泉善次殿

内須川伊右衛門殿

一金七拾兩者 正金

右之通請取申處実正也、仍如件

天保十三年九月十五日

齋藤吉右衛門

洪谷嘉藏

飯酒盃鼎

房間次右衛門

今泉善次殿
内須川伊右衛門殿

一金五拾四兩也

右之通請取申處実正也、仍如件

天保十三年十二月四日

齋藤吉右衛門

洪谷嘉藏

飯酒盃鼎

房間次右衛門

今泉善次殿
内須川伊右衛門殿

一金貳拾兩者 正金

右之通請取申處実正也、仍如件

天保十三年十二月廿日

齋藤吉右衛門

洪谷嘉藏

飯酒盃鼎

房間次右衛門

天保十四年四月四日調

一金四百五拾壹兩壹分也

天保十三年六月より御普請、

家根骨御成就迄御杣高如上

唐破風之杣高

獅子象杣高

一金貳拾四兩也

×金四百八拾貳兩三分也

右之内

一金七兩三分也

房間次右衛門

飯酒盃鼎

洪谷嘉藏

齋藤吉右衛門

右棟梁四人望を以大工面々相働を以御寄附、如上
残而金四百七拾五兩也

二百廿七兩 御造作一式 一九兩也 被成下候不足

貳分也 但別帳御袖之通如上 おのからよし

一五兩也 唐破風けんきよ鳳凰 一四兩也 けんきよのひれ

一三兩也 衝破風けんきよ 一貳兩也 千鳥破風のけんきよ

一拾兩也 御室口中莫大欄間 一七兩也 御室口右欄間

一七兩也 同左欄間 一貳拾兩也 御拝口敷石并
廻石二重積ニテ

メ金六百七拾七兩壹分也

右之内

一金貳拾八兩三分也 大工別働を以御寄附

指引残 金六百四拾八兩貳分也

一壹兩三分貳朱也 幸徳院家根 一壹分貳朱也 銅綱の台ほね共ニ

吹替門手入

一壹兩貳分貳朱也 梁上ヶ入用 一八兩貳分也 四人棟梁江祝儀

諸懸り 壹兩貳分ツ、外ニ上下巻具

一壹兩也 大額巻面 一壹兩也 くし祭り屋ね吹三人江

祝儀并いわひ之餅まき錢共ニ

一金四兩壹分貳朱也

貳貫貳百六十文 勸化札打直し釘代

廿壹貫百七十文 大工七拾三人外ニ札代

壹貫貳百七十文 人足拾壹人 一拾兩也 内神欄間三間

百文 なは代 中喜一間・政吉貳間

壹貫五百文 りう久五枚

壹貫八百貳十文 枕木八本・階子貳脚 一四兩也 門前先大地

三貫文 板拾五間挽賃駄賃 蔵堂大破損、手入

メ三拾壹貫七百貳十文 屋ね成就迄

此金四兩壹分貳朱五百五十文

右之内五百五十文引錢如上

一壹兩也 さいせん箱

総御成就迄悉皆袖高

メ金六百八拾六兩壹分也

右之通拙者共精誠相尺書上申処、被届無相違御普請成就可仕候、右之外
聊余分之金子頂戴仕間敷候、斯大加藍御普請棟梁職蒙 仰、善時節生逢
何ヶ成宿縁と冥加至極難有合掌之外、他事無御座候、為神証差上申一札、
仍如件

天保十四年四月四日

同元メ役 齋藤吉右衛門

大工棟梁 洪谷嘉藏

同 飯酒盃鼎

同 房間次右衛門

江部長左衛門殿

小嶋秀之助殿

池田壯藏殿

小山源介殿

今泉善次殿

内須川伊右衛門殿

右棟梁申出之金高我々立会聊無相違可為致成就候間、安心可被致候、又而同証、仍如件

国分味之藏殿
齋藤伊右衛門殿

内須川伊右衛門

今泉善次

小山源介

池田壯藏

小嶋秀之助

江部長左衛門

法音寺 宥善

渡部伊右衛門殿

高橋嘉左衛門殿

高橋六右衛門殿

遠藤権兵衛殿

岩間勘三郎殿

中村伊左衛門殿

寒河江佐右衛門殿

神尾安右衛門殿

遠藤彦右衛門殿

近野清兵衛殿

川村半兵衛殿

中村宗四郎殿

藤倉富藏殿

井上甚兵衛殿

鈴木孝介殿

山木次佐四郎殿

板谷彦総殿

米野次左衛門殿

覚

一九百六拾五文 前机

一貳貫三百 勸化札土ノ付処

五十文

一八百七十文 大黒之台

一三百七十文 帳とん壺錠

一壺貫七百 鱧口之尾

六十文 大くわん

一三百文 さる錠之穴

一八貫七百 板かね壺枚

六十文 順礼札張場

一貳貫四百文 五間階子式脚

一壺貫貳百文 大塔婆式本

一壺分也 屋ねふき祝儀

一貳拾貫文 格子四数塗賃

一五百式十文 箱錠式ツ

一三百八十文 こしかけ之分

一壺貫五百 箱錠尊分

一壺貫五百 八百や甚兵衛払

一九百五十文 燈加以上ヶ式ツ

一貳貫三百 御札箱

六十文

一拾壺貫 二ツ切之御札

三拾五文 五百拾三枚

一三百八十文 箱錠壺ツ

一拾貫文 箱檀敷板

塗賃

一壺貫貳百文 風冷下ヶ稲妻

四本

一壺貫五百文 腰掛台式ツ

立机五ツ

一三百文 大立札式本

一五百文 御■台塗共二

一壺貫 額縁塗共二

七十文

一四百文 くさり式本

こしかけ台之分

一五貫四百 勸化札場五間

五十文 之処

六十式文 同 藤内

メ壹分ト錢七拾八貫八百拾七文

一拾壹兩貳朱也 笹整村佐五右衛門■ 一拾三兩也房間次衛門・飯酒盃鼎

元山木様メ高

渋谷嘉藏・斎藤吉右衛門

一壹兩壹分也 右同断人足料

右四人御袖之上御普請無滞御成就候処、右棟梁共勘定銘細工数今泉善次・

内須川伊右衛門并施主方立会相改之処、工数千人余懸り増、依之御作事

屋御頭御両主郡割所御両主江御沙汰二相及候処、格別之御吟味合を以右

之通被成之

石

一拾三兩貳分ト 縁石山腹より 一貳拾貳貫 敷石幅三間半七間半

五十文 切合共二 三百式十文廿四坪八分縁石除き

一四貫六百 敷石縁十八間半一拾八貫六百 敷石作料

貳拾五文 五十文

一貳貫六百 右石三坪半作料 一五貫貳百 地藏前古石

十五文 五十文 七坪分作料

一六貫五百文 山出し廿六人分 一壹貫貳百 拜殿江古石引

一貳拾壹貫 燈籠台座 一五貫四百文 縁石貳丈七尺

三百六十文 山取合方迄

右之内四兩也 立町施主より燈籠台座分直納ス

此錢貳拾八貫四百八十文

メ金拾三兩貳分ト錢五拾九貫五百四十文

一貳分也 石工五右衛門 御賞金 一壹兩也 池内良介石山札

伝左衛門

一壹分ト 石切諸入料

五貫八百廿四文

一三拾壹貫 本堂裏前後

九拾五文 山堀人足

メ金拾六兩ト錢貳百貫百四拾四文

此金二拾八兩ト七百八拾四文

合金四拾四兩ト錢七百八拾四文

右之内

一金貳拾兩也 四月六日渡し

残而 金貳拾四兩ト錢七百八拾四文

覺

一貳兩貳分也 妻虹梁上飾式ツ 一三兩也 向拝口桁隠シ六ツ

一五兩也 も屋桁隠シ十 一二兩也 衝かさり五ツ

一貳兩二分也 も屋かひるまた五ツメ金拾五兩也

一拾九貫 寅ノ二月より五月迄 一拾貫文 幸徳院雪隠

五百拾九文 大工作料飯酒盃鼎

わたし

一七貫八百 幸徳院疊廿帖 一三分ト 黒椀五十人前

六十文 表替 五百廿五文 瀬戸皿百枚

一三兩也 唐戸鉄金具増 一壹貫四百文 大提灯二ツ釣かね

一貳兩貳分也 寶頭廬大黒天 一壹兩貳分也 柳町南町

高戎法印像蘭之 欄間二間寄附江

紋一ツ 手伝

一拾兩者 法音寺 一壹兩ト 大町下通金燈籠

貳貫九百文 式基大挑灯二ツ江

寄附手伝

一 壹両也 米埜次左衛門江

一 九両也 林泉寺 西蓮寺

寄附金之内返ス

法泉寺 石井半兵衛

一 壹両也 藤倉次左衛門江

右四ヶ処江礼致候処、此金子

右同断

寄附ニ致候段ニ付封印ノ俣

請取大元帳江寄附ニ付出候事

一 貳拾三両 江戸大門通

一 拾七貫八百文 鈴木善兵衛江

二分也

銅屋仁兵衛へ

ぎほらし肉貳本

一 貳両壹分也 真鍮御膳器九ツ

一 貳朱ト 今泉善次内須川伊右衛

百六拾七貫

門■、人足壱人路

百三拾壹文

谷地かやおのから

よし、右銘細本

帳ニ印有

一 壹両也 北町講中大檀

一 貳両壹分 両替損悪金損

奉納江手伝

三朱也

覚

一金三両也 御堂縁下貫

式通打附中勘

メ右之通請取置申候、以上

郡割所

一 金拾六両也 手挟四ツ

メ右代金当役場江請取置申候、以上

閏九月

郡割所

一 金三両也

右御袖之内金子請取申事

一金三拾両也

天保十三年 一金三拾両也 天保十三年

六月十三日請取

八月三日請取

一金七拾両也

同九月十五日請取 一金五拾四両也 同十二月四日請取

一金貳拾両也

同十二月廿日請取 一金九両也 おのからよし代

一金六拾両也

天保十四年卯 一月廿一日請取 一月廿三日請取

正金四百六拾三両也

メ右之通請取申候処実正也、依如件

右之通請取申候

依如件 齋藤吉右衛門

天保十四年四月四日

飯酒盃罪 房間次右衛門

覚

一金貳拾両也 右者成嶋村石切伝左衛門・五右衛門江可相渡分

石工代中勘預置申候、依如件

天保十四年四月十二日

江部長左衛門

御杣金之内奉納施主直々請取可申様被

仰付、御差向ニ相成候分左二

一金拾両也

南町下通り

南町上通り

大欄間代

獅子象三ツ

同中通獅子象三ツ

一金三両也

同中通獅子象三ツ

馬喰町

一金拾兩也 高山吉兵衛 一金貳兩ハ 寺町今町 しゆミたんひんつる

内神欄間三間代 組子戸前 柳町上通り 一金四兩ト 中村宗四郎量之

中村宗四郎量之 七百貳十文 南町中通南之方 御縁通高欄

さりらん間代之内 御縁通高欄 右奉納施主より直々請取申様御差向ニ相成候処、金高四拾貳兩ト七百貳

十文、五月十五日迄不殘請取、御差向分皆済ニ罷成申候、此段御安心可被下候、仍印形如件

房間次右衛門 渋谷嘉蔵 飯酒盃鼎 斎藤吉右衛門

一金六拾兩也 天保十四年 一金八兩貳分也 天保十四年四月

四月十六日正金請取 廿五日四人江被成下 候御祝儀如上

一金貳兩貳分 柱立初より家根 式朱也 成就迄諸懸り 金七拾壹兩貳分也 槌ニ請取申候

両口合 金百拾三兩貳朱ト錢七百貳十文 右之通金高槌ニ請取申処実正也、仍如件

天保十四年四月十六日 斎藤吉右衛門 渋谷嘉蔵 飯酒盃鼎

房間次右衛門

御袖高之内請取申金子之事

正金如上 一金拾兩ト錢百八十文 右之通槌ニ請取申処実正ニ御座候、仍如件

天保十四年四月十六日 斎藤吉右衛門 渋谷嘉蔵 飯酒盃鼎

房間次右衛門

天保十四年十六日調

御普請悉皆成就迄 右之内 杉高

一金四百六拾三兩也 卯三月廿八日迄請取高 石代御渡

一金貳拾兩也 右之内 金八拾兩也

總差引殘 金八拾兩也 右之通御普請御成就迄金高之内追々御渡被下殘金八拾兩者御預置被下、

当卯六月悉皆御成満之上、目出度御渡被下候ハ、難有奉存候、連印仍如件

天保十四年四月十六日 斎藤吉右衛門 渋谷嘉蔵 飯酒盃鼎

房間次右衛門

江部長左衛門殿 小嶋秀之助殿

池田壯蔵殿 小山源介殿

今泉善次殿

内須川伊右衛門殿

渡部伊右衛門殿

高橋嘉左衛門殿

高橋六右衛門殿

遠藤権兵衛殿

岩間勘三郎殿

中村伊右衛門殿

寒河江佐右衛門殿

遠藤吉右衛門殿

川村半兵衛殿

神尾安右衛門殿

近野清兵衛殿

板谷彦総殿

藤倉富藏殿

中村宗四郎殿

鈴木孝介殿

井上甚兵衛殿

米野次左衛門殿

国分味之藏殿

山森佐四郎殿

斎藤伊右衛門殿

六月十日入仏供養ニ付諸人江振舞候献立左ニ

一 赤飯

御酒

一 煮染

大こん干

一重

大こん干

なす

生こん

生こん

なす

詰こんふ

一鉢

きうり引

外ニミそ漬式切ツ、

しそ

以上

右之通為御入料

一金五両也 諸買物代分

一式拾三俵 餅米

一式千盃 酒

右之通御渡シ被下候上ハ拙者共相量、諸人江振舞可候、尤右高二テハ無
覚束候得共、尚又拙者共諸方勸化致諸品もらひ受、急度無御間欠取量可
申候、為御安心差上申一札仍如件

天保十四年四月十六日

高山吉右衛門

大木卯左衛門

高山卯右衛門

江部長左衛門殿

小嶋秀之助殿

池田壯藏殿

小山源介殿

今泉善次殿

内須川伊右衛門殿

渡部伊右衛門殿

御施主中

六月十日御入仏ニ付朝御賄、於幸徳院御僧中様五十人前仕出仕被 仰付、

柚左ニ申上候

皿 八文 油上ケ麩

汁 こまこまとうふ

平麩 手塩木瓜漬 飯

茄子 しまりたけ さ、け 引こん

御酒さかな 敷紙 昆布 鉢 さ、け和合 鉢 葛溜

ゆへし

右代料金壹両申請、尤米味噌之儀ハ法音寺様より請取、酒ハ笹埜村役より請取、被届無御間欠仕出し差上可申候、為念差上申一札、仍如件

天保十四年四月十六日 品川屋八右衛門

江部長左衛門殿

小嶋秀之助殿

池田壯藏殿

小山源介殿

今泉善次殿

内須川伊右衛門

渡部伊右衛門殿

御施主中

六月十日入仏供養大曼荼羅供修行入用之品請取申事

一 式朱也 五宝 一 式朱也 五色仏供

一 式分也 菓子 一 壹分也 餅

一 式百也 筋引 一 五百文 杉原式帖

一 七百五拾文 中折五状 一 四百文 ち子兩人

礼物

一 壹分也 散花数百 一 式分也 人足札

一 五百文 氷砂糖 一 三百文 水菓子

一 式朱也 沈香 一 百文 びやう檀

一 式朱也 五種香 一 式百文 檀香

一 式百文 塗香 一 壹分也 木綿損料

一 壹分也 貝吹 一 式百文 朽輕箱

兩人札

一 六百文 白砂糖 一 六兩壹分也 総布施

× 金八兩三分卜錢三貫九百五十文

右之外品物二而御渡被成候品左二

八寸角 十■掛

一 大卒都婆式本 一 燈籠油壹貫目 一 蠟そく百挺

一 牡丹大花式本 一 中花式本 一 五色蓮花五本

一 御前花壹本 一 ち子花式本 一 六合花拾式本

一 まんちう五百 一 こも百数

右之通請取申処実正二候、然上者たとへ不足之品有之共、拙寺共相弁ひ

御供養無滞成就可致候、御安心可被成候、連印仍如件

天保十四年四月十六日 延寿寺

安養院

蔵王堂

大乘寺

江部長左衛門殿

小嶋秀之助殿

池田壯藏殿

小山源介殿

今泉善次殿

内須川伊右衛門殿

渡部伊右衛門殿

御施主中

「萬歳録」解説

(表紙)

萬歳録

(印)

天保四年癸巳の夏、舞高の災に笹野の霊場灰となりぬ、八海山前住阿闍梨高戒法印再建を企て、現住阿闍梨宥善法印これに繼て切を果さんと欲し給ふに救の信主あり、その中に十有六人の大願主有りて、十方に乞ひ信施を願ふ尊哉、観音妙知力とは大悲の金言也、しかりといへとも分を借りさる事なし、亦分のおよふ所にあらず、実に観音の妙知力によらずんハ角て、此大業を果すを得んや、古人の云く、事をはかるハ人にあり、事をなすハ天にありと断の謂乎、依て十方縁有も縁無も務て力を尽しなは檀波羅蜜の正行に至ん、大慈菩薩歛修の謁に云、二人を勧て善を修せしむれば自己の精進に比す、勧て十人に至れば福德無量なり、若百と千とを勧めは名つけて真の菩薩とす、又万数に過れば即是如来也と云々、嗟呼我等等幸ひに遇難きの時に逢ひ

衆を勧て善種を福田に植しめん、希

渡辺伊右衛門

同 廿九日

は十方の信士共に助力し衆を勧て財

二月廿六日

助力 鈴木奥右衛門

宝を喜捨せしめハ、速に補陀落の霊

立町

嶋貫権蔵

場を成就せしめん、されは大悲の妙

遠藤総兵衛

立町

遠藤総兵衛

知力とハ能世間の苦を救ふ誓願たの

遠藤吉右衛門

桐町

遠藤吉右衛門

みあり、或日有善法印予に告て云、

高橋嘉左衛門

高橋嘉左衛門

いつれも家業に邊なき十六の人々已

川村半兵衛

岩間甚三郎

か活計を抛ち勸化に十方を廻る善

中村総四郎

中村総四郎

哉、此信主あらさらましかはいつの

鈴木孝助

井上甚兵衛

日か成就を得ん、日毎勤行の姓名を

渡辺伊右衛門

渡部伊右衛門

しるし一冊となし、萬世録と名け本

二月廿七日

二月晦日

尊の前江秘め置かは萬々世家門繁栄

立町 遠藤総兵衛

立町 遠藤総兵衛

求願成就、悉地円満の祈念怠慢無か

遠藤吉右衛門

桐町 遠藤吉右衛門

らしむ、依てこの冊に席せよと命し

高橋嘉左衛門

川村半兵衛

給、再三辞すといへとも許し給ハす、

川村半兵衛

川村半兵衛

唯信志の筆を染よとあれは固辞も却

鈴木孝助

渡部伊右衛門

ていやなしと唯一心に合掌し乃至回

渡部伊右衛門

三月朔日

向法界と爾云

二月廿八日

立町 遠藤総兵衛

天保十三年壬寅中夏五日

立町 遠藤総兵衛

立町 遠藤総兵衛

豊秋舎渡辺廣繁謹言

遠藤総兵衛

鈴木孝助

(印) (印)

遠藤吉右衛門

渡部伊右衛門

天保十三年二月廿五日

高橋嘉左衛門

四月五日

立町 遠藤総兵衛

鈴木孝助

遠藤総兵衛

中村総四郎

井上甚兵衛

桐町 遠藤吉右衛門

遠藤吉右衛門

渡部伊右衛門

高橋伊兵衛

岩間勘三郎

高橋六右衛門

高橋六右衛門

渡部伊右衛門
助力 嶋貫權藏

林壽十次郎

五月廿一日

桐町 遠藤総兵衛
銅屋町 中村総四郎
高橋伊兵衛

助 小池忠藏

渡部作右衛門

四月六日

桐町 遠藤総兵衛
北町 遠藤吉右衛門

大町

遠藤総兵衛
中村総四郎
同 新右衛門

銅屋町

高橋伊兵衛
神尾安右衛門

力

遠藤清右衛門
村上善太郎
鈴木文次

川村半兵衛

井上甚兵衛

寒川江佐右衛門

小林文藏

高橋六右衛門

高橋嘉左衛門

高橋六右衛門

三瓶喜三郎

渡部長吉

高橋六右衛門

板谷彦総

金澤茂右衛門

五月十七日

大町 遠藤総兵衛
高橋嘉左衛門

助力

鈴木奥右衛門
情野七右衛門
林崎十次郎

助力

林崎十次郎
情野七右衛門
佐藤孫総

五月廿三日

川井小路遠藤權兵衛
割出町 高橋伊兵衛

東寺町 渡部伊三郎

助力 林崎十次郎

渡部伊右衛門

同 二十日

五月廿二日

松葉総左衛門

助力 鈴木奥右衛門

大町

遠藤総兵衛

柳町

遠藤総兵衛

小林文藏

竹田伊勢次郎

柳町

高橋嘉左衛門

柳町

遠藤総兵衛

遠藤清右衛門

五月十八日

中村総四郎

免許町

高橋六右衛門

村上善太郎

大町 遠藤総兵衛

井上甚兵衛

東寺町

板谷彦総

前山久四郎

五月十八日

神尾安右衛門

川井小路高橋嘉左衛門

中村総四郎

渡部伊右衛門

割出町

中村総四郎

五月廿四日

渡部伊三郎

中村新右衛門

助力

林崎十次郎

今町

井上甚兵衛

大町

渡部伊三郎

高橋嘉左衛門

情野七右衛門

今町

井上甚兵衛

同

長吉

渡部伊右衛門

神尾次郎兵衛

渡部伊右衛門

情野七右衛門

同

長助

助力 鈴木奥右衛門

渡部伊三郎

江口利助

助力

林崎十次郎

情野七右衛門

高山吉右衛門

宮川政藏

いせや七右衛門

渡部作兵衛
遠藤総兵衛

渡部伊右衛門

右兩人

笹野江行

五月廿五日

東町 遠藤総兵衛

南町 中村総四郎

馬口勞町神尾安右衛門

こんや町渡部伊右衛門

助力 神尾彦右衛門

林崎十次郎

宮川政藏

情野七右衛門

寺嶋清左衛門

小嶋弥六

安彦專助

長谷部十吉

鈴木長七

小林文藏

五月廿六日

東町 遠藤総兵衛

南町 井上甚兵衛

馬口勞町高橋嘉左衛門

神尾安右衛門

渡部伊右衛門
助力 宮川政藏

情野七右衛門

小嶋弥六

安彦專助

寺嶋清左衛門

長谷部十吉

五月廿七日

桐町 遠藤総兵衛

高橋六右衛門

遠藤吉右衛門

寒川江佐右衛門

中村総四郎

井上甚兵衛

渡部伊三郎

助力 嶋貫権藏

小林文藏

鈴木長七

三瓶喜三郎

五月廿七日

南町 遠藤総兵衛

馬口勞町渡部長吉

在宅奉加帳調

渡部伊右衛門

助力 会津屋刀松
長谷部十吉

三原甚兵衛

林崎十次郎

情野七右衛門

寺嶋清左衛門

安斎吉兵衛

会津や角藏

車力 某

五月廿八日

立町 遠藤総兵衛

渡部長吉

上・下花沢 星忠益

助力 梅津嘉内

鈴木林兵衛

我彦重兵衛

湯澤平兵衛

さしらや彦藏

横尾吉藏

渡部伊兵衛

林崎十次郎

情野七右衛門

五月廿八日
桐町 遠藤総兵衛

座頭町 遠藤吉右衛門

信夫町 高橋嘉左衛門

銅屋町 渡部伊右衛門

中村総四郎

高橋巳之助

助力 嶋貫権藏

新国権藏

中村与兵衛

鹿又忠藏

松葉や長藏

鹿俣栄藏

鈴木奥右衛門

五月廿九日

立町 渡部長吉

下長井より

宮内辺迄

藤倉富藏

助力 杉原藤助

渡部伊兵衛

鈴木林兵衛

山口友藏

梅津嘉内

横尾吉藏

吾妻十兵衛

林崎十次郎

五月廿九日

桐町 遠藤吉右衛門

銅屋町 高橋巳之助

長町 渡部伊三郎

北町 板谷彦総

井上甚兵衛

遠藤総兵衛

中村総四郎

渡部伊右衛門

右三人

笹野村役人中へ

応対用相勤

助力 竹内久右衛門

鹿又栄蔵

嶋貫権蔵

松葉や総左衛門

玉屋

六月朔日

鍛冶町 遠藤総兵衛

鉄砲や町渡部伊右衛門

桶屋町 同 伊三郎

地番匠町同 長吉

大町下通同 長助

茶洗町 高橋嘉左衛門

同片町

東町

大町上

助力 渡部伊兵衛

江口利助

小嶋弥六

吾彦専助

宮川政蔵

剣重吉郎兵衛

梅津嘉門

小林文三郎

鈴木長七

金澤市五郎

六月六日

大町 遠藤総兵衛

渡部伊三郎

井上甚兵衛

中村総四郎

高橋嘉左衛門

渡部伊右衛門

助力 林崎十次郎

情野七右衛門

同七日

遠藤総兵衛

井上甚兵衛

中村総四郎

高橋嘉左衛門

岩間勘三郎

渡部伊右衛門

助力 情野七右衛門

林崎十次郎

六月六日

鈴木孝助

近野新次郎

同 七日

鈴木孝助

近野新次郎

六月十四日

米野次左衛門

大施主人数二頼

宥善法印 遠藤権兵衛

渡部伊右衛門

六月十日

小林文蔵

同 文三郎

鈴木長七

六月二十八日

情野七右工門

林寄十次郎

七月晦日

鈴木孝助

藤倉富蔵

渡部伊右衛門

遠藤総兵衛

中村総四郎

板谷彦総

井上甚兵衛

高橋嘉左衛門

高橋六右衛門

近野清兵衛

八月二日

国分味之蔵

山森佐四郎

中村吉兵衛

右三人大施主人数加入相頼

遠藤権兵衛

中村伊左衛門
同 総四郎

藤倉富蔵

鈴木孝助

高橋六右衛門

渡部伊右衛門

遠藤吉右衛門

高橋嘉左衛門

米野次左衛門

免許町勸化

米野次左衛門

高橋嘉左衛門

渡部伊三郎

助力

江口利助

九月朔日

八海山会

藤倉富蔵

遠藤総兵衛

井上甚兵衛

中村総四郎

高橋伊兵衛

川村半兵衛

鈴木伊久蔵

遠藤吉次

国分味之蔵
高橋巳之助
渡部伊右衛門

九月二日

近野清兵衛

中村伊左衛門

鈴木孝助

川村清三郎

高橋伊平

九月七日

遠藤総兵衛

高橋嘉左衛門

中村総四郎

近野清兵衛

山森佐四郎

井上甚兵衛

鈴木孝助

米野次左衛門

遠藤吉右衛門

渡部伊右衛門

九月八日

遠藤吉右衛門

近野清兵衛

高橋嘉左衛門

米野次左衛門
山森佐四郎
中村伊左衛門
遠藤総兵衛

渡部伊右衛門

九月十日

板谷彦総

中村伊左衛門

同 総四郎

九月十一日

鈴木孝助

近野清兵衛

九月十二日

近野清兵衛

鈴木孝助

梅津嘉兵衛

九月十三日

近野清兵衛

鈴木孝助

梅津嘉兵衛

同日

遠藤総兵衛

渡部伊右衛門
九月十四日出立
同 廿一日帰宅

藤倉富蔵

遠藤総兵衛

杉原藤助

九月十七日

遠藤総兵衛

渡部伊右衛門

九月十九日出立、同廿三日帰宅

御領竹森より諸々勸化

近野新五郎

小林文三郎

十一月十二日

遠藤総兵衛

山森佐四郎

国分巳之蔵

米野次左衛門

高橋嘉左衛門

中村総四郎

板谷彦総

渡部伊右衛門

十一月十三日

中村総四郎

米野次左衛門

渡部伊右衛門

助力 林崎十次郎

情野七右衛門

十一月十四日

勸金帳合渡部伊右衛門

川村清三郎

同十五日

中村総四郎

米野次左衛門

岩間勘三郎

渡部伊右衛門

十一月十七日

板谷彦総

中村総四郎

渡部伊右衛門

同十八日

遠藤総兵衛

中村総四郎

米野次左衛門

渡部伊右衛門

助力 劔重吉次

九月十九日

遠藤総兵衛

神尾安右衛門

渡部伊兵衛

同 長助

助力 情野七右衛門

林崎十次郎

長谷部十吉

佐野川清次

十一月廿日

高橋嘉左衛門

米野次左衛門

藤倉富蔵

渡部伊右衛門

霜月廿一日

十五人 岩間勘三郎

遠藤総兵衛

神尾安右衛門

高橋嘉左衛門

米野次左衛門

中村総四郎

川村清三郎

山森佐四郎

十一月廿一日連

遠藤吉右衛門

近野清兵衛

高橋巳之助

国分味之蔵

石田名助

渡部伊右衛門

劔重吉次

施 永井屋清蔵

八百屋彦左衛門

花澤安右衛門

藤倉次左衛門

梅津嘉兵衛

食 渡部伊兵衛

高橋六右衛門

金澤権兵衛

施食

萬蔵

高橋嘉左衛門

遠藤権兵衛

中村伊左衛門

渡部伊右衛門

鈴木孝助

近野清兵衛

施 板谷彦総

山森佐四郎

国分味之蔵

遠藤吉右衛門

九里三郎兵衛

中村総四郎

食 藤倉富蔵

遠藤寅左衛門

川村伊七

吉井忠左衛門

須貝次郎兵衛

相場久左衛門

市川吉郎兵衛

川村半兵衛

神尾安右衛門

井上甚兵衛

岩間勘三郎

木村藤七

寒川江佐右衛門

三原甚兵衛

高橋廣次

鈴木奥右衛門

山内頭助

紙屋藤右衛門

竹田伊せ次郎

食 金澤市五郎

金澤茂右衛門

鹿俣栄蔵

植木彦兵衛

杉原藤助

米野次左衛門

寒川江佐蔵

染屋平右衛門

木や孝助

右に施食と書けるハ施主中の多人数
早朝より勸化に相廻り候に、三宝婦
依信者の面々歎喜は絶候、あるひハ

朝飯あるひハ昼またハ夜食なんとを
態にもてなしさふらうは、またまた
観世音の部類眷属と思ひのふかくな

るへし、この厚意に春の日を長しと
をもわす、三伏の暑を凌ぎ冬の吹雪
を寒しとせず、出家の身にもあらず、

凡俗の我等いかんとこれを回向せん
や、されハとて打捨今もあらされは
この冊にしるし本尊の宝前へ納、永

久富貴繁昌如意御守護希のみ

十一月廿二日

遠藤総兵衛

中村総四郎

米野次左衛門

高橋嘉左衛門

岩間勘三郎

鈴木孝助

神尾安右衛門

近野清兵衛

山森佐四郎

国分巳之助

石田名助

花澤安右衛門

渡部伊右衛門

劔重吉次

十一月廿三日

山森佐四郎

国分巳之蔵

高橋巳之助

遠藤吉右衛門

近野清兵衛

鈴木孝助

遠藤権兵衛

渡部長助

鹿俣栄蔵

劔重吉次

十一月廿四日

板谷彦総

高橋巳之助

近野清兵衛

川村清三郎

岩間勘三郎

高橋嘉左衛門

米野次左衛門

遠藤総兵衛

渡部伊右衛門

山森佐四郎

小林文三郎

情野七右衛門

同廿五日

板谷彦総

遠藤権兵衛

高橋巳之助

近野新五郎

鈴木伊久蔵

渡部長助

米野次左衛門

助力 八右衛門

同廿六日

小林文三郎

同 文蔵

鈴木長七

十一月廿七日

米野次左衛門

岩間勘三郎

遠藤総兵衛

渡部伊右衛門

助力 神尾茂兵衛

林寄十次郎

情野七右衛門

小池忠蔵

十一月廿九日

岩間勘三郎

米野次左衛門

山森佐四郎

近野清兵衛

鈴木孝助

川村清三郎

高橋嘉左衛門

渡部伊右衛門

遠藤総三郎

助力 船山英助

劔重吉次

十一月晦日

川村清三郎

遠藤総三郎

渡部長助

助力 小林文蔵
鈴木長七

十二月五日

遠藤総兵衛
神尾安右衛門
渡部伊右衛門

十二月五日夜

渡部伊右衛門
遠藤権兵衛
鈴木孝助
近野清兵衛

十二月六日

渡部伊右衛門
遠藤権兵衛
中村宗四郎
米野次左衛門
岩間勘三郎
高橋嘉左衛門
近野清兵衛
情野七右衛門

十二月七日

神尾安右衛門
藤倉友次

渡部伊右衛門
遠藤権兵衛

中村新右衛門
井上甚兵衛

中村総四郎
高橋嘉左衛門

米野次左衛門
岩間勘三郎

川村清三郎
鈴木孝助

近野清兵衛
寒川江佐右衛門

高橋六右衛門
板谷彦宗

国分味之蔵
小林文三郎

情野七右衛門

十二月八日
遠藤権兵衛
渡部伊右衛門

同九日
遠藤権兵衛
同 総兵衛

板谷彦蔵
渡部伊右衛門

笹野村当役面附

肝煎 高山吉右衛門淨延
欠代 大木卯左衛門義道

長百姓 高山卯右衛門貞康
同 伊藤次三郎

同 安部八郎兵衛
同 遠藤四郎右衛門

天保四春以来去天保十三夏退役
当役中別蓋丹誠

前肝煎 高山吉兵衛利忠
前欠代 遠藤市右衛門豊忠

世話 加藤祐七
普請総掛世話 高山佐五右衛門高包

天保十四年正月八日 去寅年総勘定
寄合

神尾安右衛門
遠藤総兵衛

米野次左衛門
鈴木孝助

高橋六右衛門
藤倉金兵衛

井上甚兵衛
高橋嘉左衛門

近野清兵衛
板谷彦蔵

渡部伊右衛門

中村総四郎

岩間勘三郎
遠藤吉右衛門

国分味之蔵
遠藤権兵衛

中村伊左衛門
川村清三郎

山森佐四郎

正月十七日
遠藤権兵衛

神尾安右衛門
渡部伊右衛門

同 伊兵衛
鈴木伊総次

川村彦兵衛

同十八日より廿三日迄勘定
川村清三郎

藤倉孫助
渡部伊右衛門

同 長助

正月廿四日
八海山会遠藤権兵衛

井上甚兵衛
中村宗四郎

川村半兵衛
岩間勘三郎
遠藤吉右衛門
国分味之助
米野次左衛門
渡部伊右衛門

鈴木孝助
石井半兵衛
梅津嘉兵衛

二月廿三日

岩間勘三郎

高橋嘉左衛門

米野次左衛門

川村清三郎

渡部伊右衛門

二月十三日

鈴木孝助

石井半兵衛

遠藤權兵衛

渡部伊右衛門

二月廿日

遠藤総三郎

渡部長助

同廿一日行、廿七日帰宅

東御領地勸化 情野七右衛門

二月七日

遠藤權兵衛

米野次左衛門

渡部伊右衛門

同 十四日

遠藤総三郎

渡部長助

同廿六日

渡部長助

蓮沼喜右衛門

同廿一日

西蓮寺行遠藤權兵衛

渡部伊右衛門

二月十二日

石井半兵衛類

遠藤權兵衛

高橋嘉左衛門

渡部伊右衛門

二月十四日

遠藤權兵衛

中村総四郎

川村清三郎

米野次左衛門

渡部伊右衛門

同廿七日

渡部長助

情野七右衛門

遠藤權兵衛

渡部伊右衛門

二月十二日

神尾安右衛門

川村清三郎

渡部伊右衛門

山森佐四郎

遠藤權兵衛

鈴木孝助

中村総四郎

助力 寺嶋清左衛門

同十五日

近野清兵衛

鈴木孝助

同廿五日

米野次左衛門

遠藤權兵衛

二月廿八日

遠藤權兵衛

渡部伊右衛門

二月十六日

近野清兵衛

鈴木孝助

渡部伊右衛門

同廿九日

遠藤權兵衛

山森佐四郎

国分味之藏
渡部伊右衛門
同 長七

二月晦日

齋藤伊右衛門大施主人數頼

遠藤權兵衛

渡部長吉

三月朔日

渡部長助

林崎十次郎

三月四日

三**三**次兵衛

今久次郎

長**長**安兵衛

三月五日

遠藤総三郎

渡部長助

三月五日

遠藤權兵衛

中村総四郎

高橋嘉左衛門

米野次左衛門

齋藤伊右衛門

岩間勘三郎

渡部伊右衛門

助力 小林文藏

同 文三郎

鈴木長七

三月六日

岩間勘三郎

米野次左衛門

中村総四郎

神尾安右衛門

助力 安齋吉兵衛

寺嶋清左衛門

会津や刀松

鈴木文次

鈴木喜作

三月六日

遠藤総三郎

渡部長助

三月六日

渡部伊右衛門

同七日

遠藤權兵衛

中村総四郎

米野次左衛門

渡部伊右衛門

三月八日

遠藤吉右衛門

同人妻

近野清兵衛

鈴木孝助

川村半兵衛

岩間勘三郎

高橋嘉左衛門

米野次左衛門

中村総四郎

遠藤權兵衛

渡部伊右衛門

神尾安右衛門

齋藤伊右衛門

助力 山内題助

九里三郎兵衛

三月九日

渡部伊右衛門方

藤倉富藏

遠藤權兵衛

中村総四郎

川村半兵衛

高橋嘉左衛門

岩間勘三郎

渡部伊右衛門

神尾安右衛門

從三月閏九月迄之姓名繁忙ニ而巨細不遂誌人々前ニ所録見、姓名を可知其勲功也

天保十四年閏九月十三日 宥中誌

(印)

(印)

前往高戒和上立ニ於大願力ニ志勞テ修營多年基趾殆成其切半途而逝矣、予躡ニ先修一直繼ニ其志ニ、雖レ然願広力狭而不レ堪、大業偏仰ニ於薩埵之冥感ニ、普賴ニ信士之尽力ニ、而已正通大願助大力者廣繁也、隨而一十九人之豪富家如何權也、是節大士之応化、或現ニ商人身ニ、或現ニ居士身ニ、或現ニ長者身ニ者半彼菩薩而度彼衆生此人而助、此願力化縁与無縁不レ分、真兼レ俗令レ信、於ニ闔国ニ招施、於二十方ニ其能幻ニ出宝構ニ、化ニ現金碧ニ、莊嚴仏土成就、衆生者是箇廣繁之大願力也、此人即 觀音歟觀音即此人歟、法身之応

用不レ可レ知、于レ時普陀山呼而唱二
萬歲一冊二成レ書復藏之玉扉一業火不
レ燒、魔風不レ破二人之帶一、此幸德
回得二於長命之樂一、箇々到二彼笹野
一、共遊樂清涼之月者也

維天保十四年星次癸卯

閏九月十有三日

八海山現主

法印宥善 歛跋

(印)(印)